

開成の杜

第122号 ●2023年9月27日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <https://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口 修



立秋の中庭に咲く「マキシムフサ」

温暖化の時代に学ぶ



理事長・学園長
関口 修

今年の夏は厳しい異常気象そのものでした。経験則で判断するのが従来の判断方法でしたが、この考えは変動の激しい現状には適応していないようです。

八月の初旬のころと記憶しますが、世界中のそこ彼処で摂氏40度超えのニュースが報じられました。カナダの森林火災の黒雲がニューヨークの街並みを覆い、イタリアの観光名所は暑さで閑散としてしまっなど、驚きでした。別けても、大きなショックは、ハワイ・マウイ島の歴史的町並みであるラハイナ地区とそれを囲む大きなハワイ特有の森が焼失してしまったことです。

本学にとっては姉妹校でもあるハワイ大学コミュニティカレッジMAUI校でコロナ禍以前、多くの学生・生徒がホームステイしながら学んだ島なのです。

異常気象に起因するこのような事態はロシアのウクライナ侵攻戦争や世界経済の不安定化による諸物価の高騰など、厳しい日常変化のなかの暮らしにも、大きな苦難を投げかけています。また、長年にわたり委縮を求められていた感染症対策は徐々に5類へと緩められては来ましたが、流行性であることには変わりなく、感染状況の増加傾向によりマスクを使うように求め

られています。

気候変動、ロシアによるウクライナ侵攻、コロナ感染症、諸物価の値上げ等々による世情不安は計り知れません。

世情は安全が確保され、安心な空間で生活するための解決策を求めるようになり出してはいないでしょうか。

東京電力福島第1原子力発電所の放射線除去に伴う処理水の始末は科学的な安全証明があるのでしょうか。多面、科学が進歩すればするほど仮想という虚偽的な情報発信が多角化している不思議があります。

教育の世界には新たな道具が生まれ始めました。人間の英知が追い付かない程の速さで、生成AIが出現して、使用上の混乱を招き出しています。

人類は、果たして新たな道具をどのように発展的に使うのか、不安が過ります。真贋の区別が困難になり、幾つかの職業が不要になることもおこります。また、学生・生徒・園児の発達段階の思考構造を阻害することも使い方によっては懸念されます。

現代社会は科学的真実と文・社会的な真実に大別されるのではないかと考えます。

科学は、その範ちゅうで帰結しますが、真実は科学と文・社会学の融合によって成り立ちます。即ち、生活者が理解し活用して初めて真実に命が生まれ合理となるのです。学生・生徒の皆さんには真実を見極める心を大切にして欲しいものです。

目の前の舞台に感動 4年ぶりの演劇 第219回芸術鑑賞講座 東京演劇集団風 公演



ヘレンとサラバンの絆を熱演した東京演劇集団風



終演後、舞台上での団員との交流

第219回芸術鑑賞講座は6月14日に開かれ、東京演劇集団風の「ヘレン・ケラー」ひびき合うものたち」を楽しんだ。

新型コロナウイルス感染症の影響により控えていた演劇の公演は4年ぶり。高校生と大学生が午前と午後の2回に分かれ鑑賞した。

三重苦の障がいを負ったヘレン・ケラーと家庭教師アニー・サラバンの出会いから生まれた心のつながりが、家族や周囲の人の理解を得て、困難を克服しようとするヘレンへの真の愛情へと変わって行く。目の前で繰り広げられる熱演に胸を熱くさせられた。

終演後、学生や生徒が舞台上に上がって劇団員と懇談した。実際に水が出る手押しポンプを動かしたり、食卓のセットに触れたりする機会もあった。

学園長先生を囲みお茶会 家庭寮生らへ貴重な助言

家庭寮寮友会は「学園長先生を囲みのお茶会」を6月27日に寮食堂で開いた。参加した寮生10名は、関口学園長と貴重な時間を過ごすことができた。

参加者全員が自己紹介をすすると、関口学園長は一人ひとりの言葉に一言添えてくださり、緊張気味だった寮生は感動していた。

寮生からの質問にも答え、門限についての回答では学園長先生の想いや考えを直接聞くことができた。就職活動で大切にすることを質問した寮生は「自分を飾らないこと。ありのままの自分で挑むこと」との助言をいただき、後日、内定を得ることができたという。

また、学園長先生は「現状に満足せず、限界を自分でつくりたい」「今しかできないことを全力で行う」などと話をされ、寮生たちの心に響いていた。

今年度第2回教養講座は7月12日に開かれ、四百字詰め原稿用紙と明朝体の起源となった経本の版木を保管する寺院の住職が、その意義について語った。

鉄眼版一切経版木の多大な意義を語る 盛井住職招き教養講座

講師に招いたのは黄檗宗大本山萬福寺塔頭宝蔵院(京都府宇治市)の盛井幸道住職。江戸時代の鉄眼(てつがん)禅師が生涯をかけて残した一切経(いつさいきょう)版木約6万枚を保存している。「鉄眼版一切

経」と呼ばれる経本版木は布教だけでなく、漢字の明朝体や原稿用紙のルーツとして日本の印刷、出版文化の進歩に多大な貢献をした。

盛井住職は「お経は亡くなられた人のためではなく、お釈迦様が、人が生きている限りつきまとう苦を克服するための教えを説いたもの」などと語り、鉄眼禅師の功績や昨年まで経本の印刷に使われた版木の貴重な役割を説明した。



鉄眼版一切経版木の意義を語る盛井住職



関口学園長(左)と懇談する家庭寮生

永年勤続者 12名を表彰

郡山開成学園の令和5年度永年勤続者表彰は6月に各職場などで行われた。

勤続30年の賀門康博(幼稚園長)をはじめ、勤続20年2名、勤続10年9名の計12名に関口修理理事長が表彰状と祝金を贈り、労をねぎらった。表彰は次の通り。

就職部より

今年度はコロナ禍前の5日間の日程でインターンシップを行った。受け入れは厳しいところもあったが、企業・幼稚園・保育園等に受け入れていただき、学生に合ったプログラムを組み、実習を行っていない学生に対して、丁寧な心のこもった対応に心から厚く感謝申し上げたい。

インターンシップ初日は、緊張しながら取り組んでいた学生も、5日目になるとすっかり職場に馴染み、笑顔でコミュニケーションを取って励んでいる姿は清々しかった。インターンシップの先々でも卒業生が活躍しており、学生時代を思い出し、後輩に指導を行っている姿は頼もしく、本学の歴史を感じる瞬間でもあった。

9月8日に報告会があり全員が就業体験を発表する。全員が目標を明確にして臨んだインターンシップでの成果発表での成長を期待したい。インターンシップにより、社会での実際の仕事で求められるレベルの高さや進め方を実感させると共に、学内で培った技術や自らの考えの過不足を認識したところは、今後の学習に繋げてほしい。



インターンシップ先で説明を聴く学生

行動して動く。目の前の事を全力で本気でやると見えてくる。生き方やキャリアは自ら選択できる時代である。これから地域企業との連携を図り、就職も視野に入れて、より良い就職支援を目指していきたい。

- ▽勤続30年 賀門 康博 (幼稚園・園長)
- ▽勤続20年 加藤 雅子 (短大助教)
- 若林 里美 (事務局・家庭寮)
- ▽勤続10年 小林 徹 (大学准教授)
- 廣野 正子 (大学准教授)
- 亀田 明美 (大学准教授)
- 佐藤 浩明 (大学准教授)
- 源川 博久 (短大教授)
- 折笠 国康 (短大教授)
- 永瀬 悦子 (短大准教授)
- 深谷 純子 (高校教諭)
- 菅野真由美 (事務局・総務部)



穂積さん最優秀賞・掛田さんは優良賞 こどものための愛情弁当



日本調理師会主催の第13回全国こどものための愛情弁当コンテストで附属高校食物科3年の穂積瑞輝さんが最優秀賞、同2年の掛田沙良さんが優良賞を受賞した。

食育推進事業の一環として、育ち盛りの子どもたちに食べさせたい各地の地産品を使った「見て楽しい、食べて元気になれる」弁当を募った。全国から1364点の応募があり、福島県予選で両名の弁当が本選の55点に選ばれた。

穂積さんの弁当は「森のくまさん弁当」。好き嫌いのある2人の姪のため、2人が好きな熊のキャラクターの顔をご飯で作り、

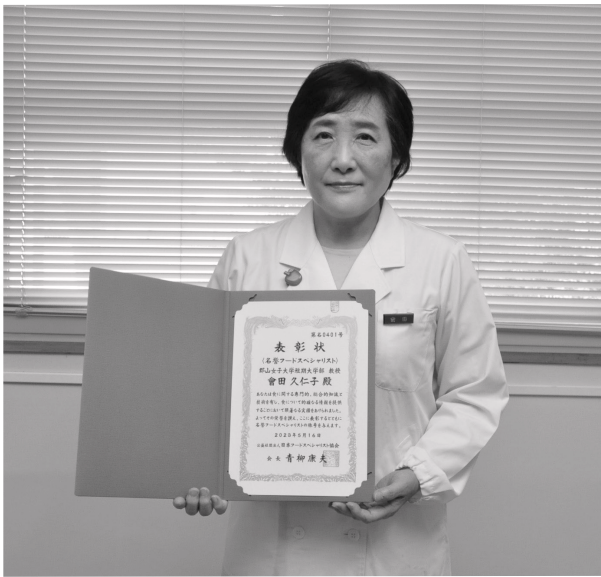
肉や野菜で栄養バランスの良いおかずを詰めた。

掛田さんの弁当は「栄養満点弁当」。米が苦手な妹に食べてもらいたいと俵型のおにぎりをメインに、卵やサツマイモで彩りも考えた弁当に仕上げた。



賞状を手に喜ぶ穂積さん(右)と掛田さん

會田教授へ名誉フー ドスペシャリストの称号



名誉フーデスペシャリストの表彰状を手にする會田教授

短期大学部健康栄養学科主任の會田久仁子教授はこのほど日本フーデスペシャリスト協会から名誉フーデスペシャリストの称号を与えられた。

門的、総合的知識と技術を有し、食品産業に貢献した人や、食についての明確な情報を広範に提供することで国民の食生活の向上に功績を上げた人を称えている。

會田教授は、本学が平成12年(西暦2000年)に養成機関として認定され、フーデスペシャリスト課程を設けて以来、指導者として令和4年度まで384名の資格取得者を送り出した。また、令和元年(2019年)に日本調理科学会学会賞を受賞した他、小野町産業6次化・発酵のまちづくり推進協議会委員を務めるなどの社会活動も認められた。

動画はエコチルふくしまのホームページ(<https://www.ecochil-fukushima.jp>)から見る事ができる。



お弁当の調理を紹介する学生たち

栄養教諭目指す学生が 動画でお弁当作り指導

大学食物栄養学科で栄養教諭を目指す学生たちが「エコチル★ふくしま親子ふれあい会」(オンデマンド開催)で企画した「親子でチャレンジ マイ弁当をつくらう」に協力し、夏休みに公開された動画に出演した。

学生たちは菊池節子教授の指導を受けている3年生と2年生。子どもの健康に影響を与える環境リスクの調査を担う福島県立医科大学エコチル調査福島ユニットセンターの委託で、調査に登録している小学生の親子向けに、自分たちが考えた弁当のレシピと作り方を紹介した。

学生たちは、お弁当の役割や栄養バランスの良い献立、苦手の野菜もおいしく食べられるおかずなどを楽しく教えている。また、動画を参考に作った弁当を応募した親子にアドバイスも行った。

消防団員の学生2名 火災予防などに尽力



郡山市消防団員の江原さん(左)と三浦さん=福島民報社提供

郡山市消防団が行った本学の学生への団員募集に今春まで2名が手を挙げ、広報活動などに尽力している。

入団したのは、ともに大学生活科学科建築デザイン専攻2年の江原和奏さんと三浦美桜さん。消火活動や行方不明者の捜索には当たらないが、市内各地での火災予防の呼び掛けや団員募集などの啓発活動に参加している。

消防団の幹部からは、若い感覚の発信力や消防団活動に女性の関心を高める役割を期待されている。

効果的な避難の 呼び掛け考える 高校でNHK防災教室

NHKのアナウンサーによる防災教室が9月5日、附属高校で普通科特進クラスの1、2年生を対象に開かれた。

災害時の効果的な避難の呼び掛けを考える趣旨で催された。NHK福島放送局の2名のアナウンサーが講師を務めた。震度7の地震による被害を想定した番組を視聴した後、人



アナウンサーを講師に開かれた防災教室

学生、教員らの力作 学園美術展に31点



学生や教員らの力作を披露した美術展

第5回郡山開成学園美術展は8月9日から15日まで郡山市・うすい百貨店ギャラリーで開かれた。

短期大学部地域創成学科の学生をはじめ、大学附属高校の教員、卒業生、生涯学習講座生の絵画やデザイン、彫刻など31点を展示した。中には第77回福島県総合美術展覧会(県展)の入賞・入選作品も披露された。

会期中、多くの市民や美術愛好者が訪れ、力作の数々を堪能した。

北の大地で躍動 附属高校インターハイ出場

今夏、令和5年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)は北海道の各地で繰り広げられた。附属高校からはバレーボール部、陸上競技部、卓球部、新体操部が晴れの舞台に臨み、全国の精鋭と競い合った。

バレーボール部

バレーボール競技は釧路市を会場に行われました。予選グループ戦で近江兄弟社(滋賀県)と対戦、2-0で勝利し決勝トーナメントへ進出しました。本校は2回戦からの登場となり、奈良文化高校(奈良県)に惜しくも敗れました。憧れのインターハイにおいて3年連続で予選グループ戦を突破し、決勝トーナメントへ駒を進めることができました。目標としていたベスト16以上は残念ながらでしたが、随所に本校らしいプレーを見ることができました。日頃より沢山のご支援をいただき、部活動を行うことがで



きていることに感謝の気持ちを忘れず、次の目標に向けて精一杯励んで参ります。

卓球部



卓球競技は8月8日から13日まで札幌市で開催されました。東北チャンピオンとして臨んだダブルスは、緊張からか実力を発揮できず2回戦で惜敗しました。シングルスは1回戦、2回戦を3-0で勝利し、3回戦でベスト8に入賞した選手に1-3で惜敗しました。しかし、ジュニアショナルチームに選ばれている選手に1ゲームを取ることができたことは大きな自信になりました。今回の結果に満足することなく、日々の練習を頑張っていきます。また、いつも応援してくださる先生方や家族、チームメイトへの感謝の気持ちを忘れず、今後も努力します。

陸上競技部

陸上競技を通して、私は競技力や体力の向上だけでなく、競技者として多くの経験を得ることができました。一つ目は忍耐



と努力の重要性です。継続的なトレーニングと高いレベルの中で挑戦することで、自身の成長を実感できました。一つ目は自己管理の大切さです、目標に向けて最高のパフォーマンスを発揮するため、自分には何が必要で、どう準備するのが大切だと思えました。この経験から、将来に向けて意欲と自信を持ち、よりよい学校生活につながるよう取り組んでいきます。

新体操部

新体操部8名は、8月11、12の両日に札幌市で行われたインターハイに出場しました。団体競技は24位という結果で、昨年よりも10位上げることができました。ノミスの演技を目標にして、ミスを最小限に抑え、強い気持ちで踊りきることをできました。個人競技では、佐藤若菜(2年)が、初めての大舞台でボールとクラブをほぼノミスで演技し、21位という結果でした。私たちを励まし支えてくださった方々に心より感謝いたします。これから次の目標を目指して練習に励んでまいります。



大会結果・報告

【新体操部】

◆福島県高等学校体育大会

▼団体総合 第1位

第1位 佐藤若菜(2年)、第2位 横山花(3年)、第3位 長沼瑠羽(2年)、第5位 渡邊紗奈(1年)、第6位 松岡るな(1年)

▼個人ボール

第1位 佐藤若菜、第2位 横山花、第3位 渡邊紗奈

▼個人クラブ

第1位 佐藤若菜、第2位 横山花、第3位 長沼瑠羽

◆東北高等学校体育大会

▼団体総合 第2位

▼個人ボール 第1位

▼個人クラブ 第2位

◆北海道高校総体(インターハイ)

▼団体 第24位

▼個人 第21位

◆福島県総合スポーツ大会

▼団体総合 団体

▼個人ボール 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位

▼個人 第1位

▼個人クラブ 第2位



4力国の医療従事者をを目指す学生が参加した研修

インドネシア・スマラン市にあるDiponegoro大学で母子保健をテーマにしたサマース2023が実施されました。医学部主催の研修にはインドネシア、イギリス、ネパール、日本の4カ国の医療従事者を、目指す学生や社会人が参加し、様々な活動を2週間にわたり共にしました。

毎日の座学では事例に対するディスカッションをチームごとに行いました。事例の問題を把握し、医療従事者としての解決策を導き出すという活動です。毎日違うチーム編成で行われるため、各国の人々との交流の場ともなりました。

授業や実践練習は、インドネシアで行われている母子保健を

母子保健をテーマに研修 インドネシアで4国学生

大学食物栄養学科
2年鈴木沙彩 河野歩乃佳
4年森合 杏

今年の夏、学生や生徒が様々な研修に参加した。海外で数々の見識を深め、国際的な感覚を高めたり、同世代の仲間と新たな創造へのチャレンジに取り組んだりした。自らの成長につなげたいと誓う参加者の報告を紹介する。

学生・生徒が海外研修などに参加



研修仲間と街へ食事にお出掛け

はじめ、性感染症や栄養失調について学んだり、出産時における救急ケアについての講義も受けたりました。地域研修ではブスケスマスやポシヤンドウ（どちらとも日本の保健所のような施設）の見学に出掛けました。ポシヤンドウでは乳幼児健診を見学し、身体計測の手伝いや栄養指導の見学をするなど実践的な活動もしました。

今回の研修では、様々な考え方、価値観に触れる機会が多く在りました。現地での生活では国境を越えてたくさんの方に支えてもらい、人の温かさや言語が異なる人との意思疎通ができたことに、とても感動し感謝しています。放課後には、様々な場所へ観光をして毎日が新鮮でした。わずか2週間でしたが、自分たちの人生の中で今後を変える変化を与えてくれるものになると思います。

ドイツで再生可能エネの 重要性学ぶ

高校特進クラス2年 阿部穂佳

私は、アースウォーカーズ主催の「福島・ドイツ高校生交流プロジェクト」に参加しました。ドイツでは再生可能エネルギーについて学び、その後1週間のホームステイをしました。

自然の中で植物を育て、気候を調査している環境省や、風力や太陽光の設置・開発を行っているJUWIを訪れたり、エネルギー関連の仕事に従事している日本人の方に話を聞いたりしました。日本は原子力発電に依存していますが、災害の多い日本で原発が増えていくことに改めて怖いと感じました。ドイツと日本では気候が異なりますが、安全な方法でたくさんさんのエネルギーが作れるように日本全体で考えなくてはいけないと強く思いました。



ドイツで感じた貴重な学びと出会い

ホームステイでは一緒に学校やショッピングに行ったり、ご飯を作ったりと充実した時間を過ごしました。

視野を広げたアメリカ・ カナダ研修

高校特進クラス2年 小林加奈

です。ことができました。特に楽しかったのはホストファミリーです。夕飯にはお好み焼きを作ってもらい、とても喜んでいました。

ドイツでの2週間はこれまでの人生で一番充実した時間でした。私が経験したことを周囲の人に伝えることで、少しでもよい国になればと考えます。



充実した1カ月を過ごした研修

私は公益財団法人ヨークベニマル文化教育事業財団主催の「アメリカ・カナダ海外研修」に参加しました。ずっと憧れていた海外での1ヶ月間は、言葉で言い表わせないほど楽しく充実した時間でした。

アメリカのシアトルには10日間滞在し、英会話レッスンや様々なアクティビティを行いました。私は自らコミュニケーションを取ることが苦手でしたが、この研修を通じてたくさんの方に英語で話し掛けコミュニケーションを取ることができるようになりました。シアトルでの貴重な経験は自分の成長に大きくつながったと思います。

カナダでの2週間のホームステイでは、不安な気持ちでいっぱいだった私をホストファミリーが温かく迎え入れてくれ、本当の

家族のように接してくれました。毎日いろいろな所へ連れて行ってくれたり、カナダで有名な食べ物を食べさせてくれたり、一生忘れられない素晴らしい経験ができました。

この研修を通して日本と異なった文化や価値観を学ぶことができ、自分の視野を大きく広げることができました。これから様々なことにチャレンジし続け、自分の夢や将来につなげていきたいです。

新たなアイデアの創造で 充実の時間

高校普通科3年 原 葉凜

今夏、私が参加した「MONOICOTO INNOVATION 2023」は、全国から選ばれた80名の中高校生が東京・日本科学未来館に集い、与えられたテーマに対して「デザイン思考」を活用し、新しいアイデアを創造する4泊5日のプロジェクトです。ただ考えるだけではなく、「本当に求められているか」という価値検証までを行い、最終日にはプレゼンテーションによって各チームのアイデアを競い合いました。

私のチームは「本屋の再定義」というテーマに取り組みました。何度も議論を重ねて試行錯誤を繰り返し、様々な発想からアイデアを形成する過程がとても楽しく、充実した時間だったと感じています。私たちの「本



新たな創造のアイデアを共に考える参加者

屋」は、本への愛情とユニークさに溢れたものになりました。

この経験を経て、私は自分の世界を広げることができたと思ひます。参加者の熱意や学ぶことを楽しむ貪欲な姿勢から受けた刺激は、自分自身を大きく成長させることができたとおもいます。未知の世界に赴くことは勇気が必要としますが、一歩踏み出せば、多様な価値観や考え方に触れて、視座を高めることができると思ひます。

喜びあふれる演奏会 高校音楽科・合唱部

附属高校音楽科・合唱部の第51回定期演奏会は7月15日、建学記念講堂で開かれました。合唱や声楽・管弦楽アンサンブル、2台ピアノなど生徒たちは、この日を楽しみに練習に取り組んだ成果を発揮しました。

コロナ禍の影響が弱まってきたといえ、まだ人前で演奏するという機会は少なく、生徒たちは演奏できる喜びに満ちあふれていました。



① 資金収支計算書				
		資金収支計算書について、その主な内容をご報告いたします。 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで		
		(単位：円)		
〔収入の部〕	科 目	予 算	決 算	差 異
	学生生徒等納付金収入	1,205,627,000	1,211,889,650	△ 6,262,650
	手数料収入	15,598,000	15,646,471	△ 48,471
	寄付金収入	10,125,000	11,305,000	△ 1,180,000
	補助金収入	676,653,000	681,950,054	△ 5,297,054
	国庫補助金収入	407,235,000	392,171,600	15,063,400
	地方公共団体(県)補助金収入	257,459,000	277,086,650	△ 19,627,650
	地方公共団体(市)補助金収入	8,594,000	9,366,000	△ 772,000
	地方公共団体(町)補助金収入	1,800,000	1,800,000	0
	福島県学術教育振興財団助成金収入	1,565,000	1,525,804	39,196
	資産売却収入	100,100,000	110,000	99,990,000
	付随事業・収益事業収入	71,338,000	73,603,770	△ 2,265,770
	受取利息・配当金収入	25,900,000	27,401,162	△ 1,501,162
	雑収入	99,093,000	103,424,762	△ 4,331,762
	借入金等収入	200,000,000	200,000,000	0
	前受金収入	327,625,000	296,395,000	31,230,000
〔支出の部〕	その他の収入	403,933,615	371,978,509	31,955,106
	資金収入調整勘定	△ 409,463,000	△ 403,158,025	△ 6,304,975
	前年度繰越支払資金	252,704,155	252,704,155	—
	収入の部 合計	2,979,233,770	2,843,250,508	135,983,262
	科 目	予 算	決 算	差 異
	人件費支出	1,619,555,000	1,616,513,194	3,041,806
	教育研究経費支出	583,680,000	579,632,320	4,047,680
	管理経費支出	163,808,000	154,826,642	8,981,358
	借入金等利息支出	1,231,000	1,231,136	△ 136
	借入金等返済支出	33,500,000	33,500,000	0
	施設関係支出	35,428,000	35,106,454	321,546
	設備関係支出	32,246,000	39,042,984	△ 6,796,984
	資産運用支出	125,378,000	10,057,334	115,320,666
	その他の支出	202,563,301	200,117,617	2,445,684
	予備費	(0)		7,900,000
	資金支出調整勘定	△ 46,032,600	△ 41,287,533	△ 4,745,067
	翌年度繰越支払資金	219,977,069	214,510,360	5,466,709
	支出の部 合計	2,979,233,770	2,843,250,508	135,983,262

④ 貸借対照表				
		貸借対照表について、その主な内容をご報告いたします。 令和5年3月31日現在		
		(単位：円)		
〔資産の部〕	科 目	本年度末	前年度末	増 減
	固定資産	6,333,363,703	6,759,544,819	△ 426,181,116
	有形固定資産	5,551,751,329	5,810,336,907	△ 258,585,578
	土地	2,745,140,681	2,745,140,681	0
	建物	1,832,420,242	2,058,018,450	△ 225,598,208
	構築物他	974,190,406	1,007,177,776	△ 32,987,370
	特定資産	273,806,650	433,675,256	△ 159,868,606
	弘前大学創立者関口育英奨学金引当特定資産	248,428,746	405,591,618	△ 157,162,872
	同窓会奨学金引当特定資産	25,377,904	28,083,638	△ 2,705,734
	その他の固定資産	507,805,724	515,532,656	△ 7,726,932
	有価証券	500,000,000	500,000,000	0
	ソフトウェア他	7,805,724	15,532,656	△ 7,726,932
	流動資産	300,108,701	387,794,933	△ 87,686,232
	現金預金	214,510,360	252,704,155	△ 38,193,795
	未収入金他	85,598,341	135,090,778	△ 49,492,437
	資産の部合計	6,633,472,404	7,147,339,752	△ 513,867,348
〔負債の部〕	科 目	本年度末	前年度末	増 減
	固定負債	1,129,365,391	1,063,280,658	66,084,733
	長期借入金	99,900,000	0	99,900,000
	長期未払金	56,456,301	92,591,706	△ 36,135,405
	退職給与引当金	973,009,090	970,688,952	2,320,138
	流動負債	507,379,729	517,677,301	△ 10,297,572
	短期借入金	66,600,000	0	66,600,000
	前受金	296,395,000	326,125,000	△ 29,730,000
	預り金他	144,384,729	191,552,301	△ 47,167,572
	負債の部合計	1,636,745,120	1,580,957,959	55,787,161
〔純資産の部〕	科 目	本年度末	前年度末	増 減
	基本金	15,896,474,053	15,836,352,673	60,121,380
	第1号基本金	15,696,474,053	15,636,352,673	60,121,380
	第4号基本金	200,000,000	200,000,000	0
	繰越収支差額	△10,899,746,769	△10,269,970,880	△ 629,775,889
	翌年度繰越収支差額	△10,899,746,769	△10,269,970,880	△ 629,775,889
	純資産の部合計	4,996,727,284	5,566,381,793	△ 569,654,509
	負債及び純資産の部合計	6,633,472,404	7,147,339,752	△ 513,867,348
	参考 減価償却の累計額	10,256,813,957	9,978,267,500	278,546,457
	参考			
	減価償却の累計額	10,256,813,957	9,978,267,500	278,546,457

⑤ 財産目録総括表				
		財産目録について、その主な内容をご報告いたします。 令和5年3月31日現在		
		(単位：円)		
基本財産	科 目	金 額	備 考	
	土地	181,860.30㎡	2,745,140,681	
	建物	50,834.37㎡	1,832,420,242	減価償却累計額 7,945,237,190
	構築物	306点	67,413,999	減価償却累計額 738,186,960
	教育研究用機器備品	12,304点	408,686,708	減価償却累計額 1,474,296,795
	管理用機器備品	693点	6,414,976	減価償却累計額 49,672,539
	図書	160,349冊	490,078,482	
	車両	4台	1,596,241	減価償却累計額 18,357,628
	水道施設利用権		0	減価償却累計額 18,765,590
	借地権		980,389	
	電話加入権		2,918,498	
	ソフトウェア	4件	3,396,837	減価償却累計額 12,297,255
	運用財産	1,074,425,351		
	現金・預金	214,510,360	預入先 東邦銀行他4行	
	有価証券	500,000,000	外国債券	
	出資金	460,000	郡山信用金庫他	
その他の資産	保証金	50,000		
	育英奨学金引当特定資産	248,428,746		
	同窓会奨学金引当特定資産	25,377,904		
	未収入金	77,033,025	退職金財団交付金他	
	前払金	136,816		
	その他の資産	8,428,500	立替金他	
	資産合計	6,633,472,404		
	固定負債	1,129,365,391		
	長期借入金	99,900,000	郡山信用金庫	
	退職給与引当金	973,009,090	退職給与に係る見積債務額	
	長期未払金	56,456,301		
	流動負債	507,379,729		
	短期借入金	66,600,000	郡山信用金庫	
	未払金	77,297,338		
	前受金	296,395,000	令和5年度生入学金等	
	預り金	67,087,391		
負債合計	1,636,745,120			
	差引正味財産	4,996,727,284		

令和4年度事業活動収支計算書において、事業活動収入合計より事業活動支出合計が大きい、基本金組入前当年度収支差額は、△569,654千円となり、基本金組入額合計△60,121千円を加えた当年度収支差額は△629,775千円となりました。従って、当年度収支差額△629,775千円に、前年度繰越収支差額△10,269,970千円を加えた翌年度繰越収支差額は、△10,899,746千円となりました。



監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実はないことを確認いたしました。

③ 事業活動収支計算書				
		事業活動収支計算書について、その主な内容をご報告いたします。 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで		
		(単位：円)		
〔教育活動収入の部〕	科 目	予 算	決 算	差 異
	学生生徒等納付金	1,205,627,000	1,211,959,650	△ 6,332,650
	手数料	15,598,000	15,646,471	△ 48,471
	寄付金	10,370,000	12,500,041	△ 2,130,041
	經常費等補助金	660,435,000	661,830,054	△ 1,395,054
	国庫補助金	391,987,000	373,505,600	18,481,400
	地方公共団体(県)補助金	256,489,000	276,116,650	△ 19,627,650
	地方公共団体(市)補助金	8,594,000	9,366,000	△ 772,000
	地方公共団体(町)補助金	1,800,000	1,800,000	0
	福島県学術教育振興財団助成金	1,565,000	1,041,804	523,196
	付随事業収入	71,338,000	73,603,770	△ 2,265,770
	雑収入	99,093,000	103,424,762	△ 4,331,762
	事業活動収入計	2,062,461,000	2,078,964,748	△ 16,503,748
〔事業活動支出の部〕	人件費	1,619,556,000	1,618,833,332	722,668
	教育研究経費	929,247,000	922,714,614	6,532,386
	管理経費	169,234,000	160,031,786	9,202,214
	徴収不能額等	0	70,000	△ 70,000
	教育活動支出計	2,718,037,000	2,701,649,732	16,387,268
	教育活動収支差額	△ 655,576,000	△ 622,684,984	△ 32,891,016

〔教育活動外収支〕	科 目	予 算	決 算	差 異
	受取利息・配当金	25,900,000	27,401,162	△ 1,501,162
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	25,900,000	27,401,162	△ 1,501,162
	借入金等利息	1,231,000	1,231,136	△ 136
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	1,231,000	1,231,136	△ 136
	教育活動外収支差額	24,669,000	26,170,026	△ 1,501,026
	經常収支差額	△ 630,907,000	△ 596,514,958	△ 34,392,042

〔特別収支〕	科 目	予 算	決 算	差 異
	資産売却差額	100,000	110,000	△ 10,000
	その他の特別収入	21,153,000	27,106,824	△ 5,953,824
	特別収入計	21,253,000	27,216,824	△ 5,963,824
	資産処分差額	1,100,000	356,375	743,625
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	1,100,000	356,375	743,625
	特別収支差額	20,153,000	26,860,449	△ 6,707,449
	(予備費)	(0)		1,000,000
	基本金組入前当年度収支差額	△ 611,754,000	△ 569,654,509	△ 42,099,491
	基本金組入額合計	△ 72,479,000	△ 60,121,380	△ 12,357,620
	当年度収支差額	△ 684,233,000	△ 629,775,889	△ 54,457,111
	前年度繰越収支差額	△ 10,269,970,880	△ 10,269,970,880	0
	翌年度繰越収支差額	△ 10,954,203,880	△ 10,899,746,769	△ 54,457,111
	(参考)			
	事業活動収入計	2,109,614,000	2,133,582,734	△ 23,968,734
	事業活動支出計	2,721,368,000	2,703,237,243	18,130,757

学校法人郡山開成学園の令和4年度決算について、監事及び東邦監査法人の監査を受け、理事会・評議員会で報告、決定されましたので、その概要をご報告いたします。

令和4年度資金収支計算書において、前年度繰越支払資金を加えた資金収入合計は、2,843,250千円となり、予算より135,983千円下回りました。これは、その他の収入、前受金収入で見込みを下回ったためです。

資金支出は、管理経費支出で見込みを下回りましたが、資産運用支出で支出額を多く見積もったことから大きく下回る結果となり、2,843,250千円となりました。

② 活動区分資金収支計算書				
		活動区分資金収支計算書について、その主な内容をご報告いたします。 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで		
		(単位：円)		
〔教育活動による資金収支〕	科 目	金 額		
	学生生徒等納付金収入	1,211,889,650		
	手数料収入	15,646,471		
	一般寄付金収入	11,305,054		
	經常費等補助金収入	661,830,054		
	付随事業収入	73,603,770		
	雑収入	103,424,762		
	教育活動資金収入計	2,077,699,707		
	人件費支出	1,616,513,194		
	教育研究経費支出	579,632,320		
	管理経費支出	154,826,642		
	教育活動資金支出計	2,350,972,156		
	差引	△ 273,272,449		
	調整勘定等	△ 26,796,408		
	教育活動資金収支差額	△ 300,068,857		

〔施設整備等活動による資金収支〕	科 目	金 額	
------------------	-----	-----	--



新しい本が
届きました。
第23回

郡山女子大学 大学図書館

学生さんからリクエストのあった本を
ご紹介します。



『エリザベート:
栄光と悲劇』

マーティン・
シェーファー著;
大津留厚監訳;
永島とも子訳,
刀水書房

請求記号
289.3ⅡE



『そして誰も
ゆとりなくなった』

朝井リョウ著,
文藝春秋

請求記号
914.6ⅡA



『トーベ・ヤンソン
人生、芸術、言葉』

ボエル・
ヴェスティン著;
畑中麻紀、
森下圭子訳,
フィルムアート社

請求記号
949.8ⅡYa



『どんぐりむらのぼうしやさん』

なかやみわ作,学研教育出版
[学研マーケティング(発売)]

請求記号 726.6ⅡNa



4年ぶりの同窓会に参加した卒園児

4年ぶりに行う事ができた
附属幼稚園同窓会。この3年
間はコロナ禍により計画しても
中止せざるを得ない繰り返し
となり、卒園児の皆さんにも寂
しい思いをさせてしまいました。
今回の実施についても新型コロナ

卒園児が楽しく交流

4年ぶりに同窓会
附属幼稚園

ロナウィルスの脅威は、まだある
ことに留意し、以前とは形式を
変えました。幼稚園各所の遊
ぶコーナーを卒園児が自由に
行き来していたのを、往來を控
えるため卒園学年がクラス毎に
集まりました。当時の先生らと

やり取りをしながら、記念品と
してのフォトスタンドや学年毎
のメッセージボード作りを行い、
楽しさと共に卒園児同士の交
流や繋がりを大切にしました。
また、仙台市のアトリエ自遊
楽校からお呼びした、あきら



学友会の活動を紹介するCM

https://www.fukutsunugi-sdgs.jp/でも視聴できます。

SDGsの実現へ
学園の活動を紹介
国連の持続可能な開発目標
(SDGs)の実現に取り組み福
島県内のプロジェクト「未来へ、福
つむぎ」に本学園も参加した。
プロジェクトは、貧困や飢餓、環
境問題など様々な課題の解決を
目指すSDGsの活性化を図ろ
うと、東邦銀行、福島中央テレ
ビ、電通東日本が提唱して9月か
ら始まった。
本学園は、大学・短大の学友会
が行っているフードドライブと古
着の再利用活動をCMで紹介。
福つむぎのホームページ(HP)に
森林保護や資源リサイクルなど
の実践を載せている。CMはHP
(<https://www.fukutsunugi-sdgs.jp/>)でも視聴できます。



第77回 もみじ会

10月
7日・8日
開催

復興「」がテーマ。幼稚
園、高校、短大、大学、
大学院それぞれの研
究・学習の成果を発表
する。
教室や講堂、体育館
などでの展示、演奏・演
技をはじめ、手作り菓
子や弁当の販売、ワー
クショップなどの体験

第77回もみじ会は10月7日
(土・8日(日))に開催される。
「不易と流行」地域社会の
コーナーも設ける。
両日とも大学・短大友会
主催の映画「キセキ」あの日の

もみじ会共催の第220回
芸術鑑賞講座「エコール・ド・パ
リ版画展」は10月3日(火)から
8日(日)まで建学記念講堂で
開く。
マリー・ローランサンやピカソ、
モディリアーニらエコール・ド・パ
(パリ派)と呼ばれる画家たち
の版画など約50点を展示す
る。
入場無料で一般公開する。
開場時間は午前9時30分から
午後4時まで。

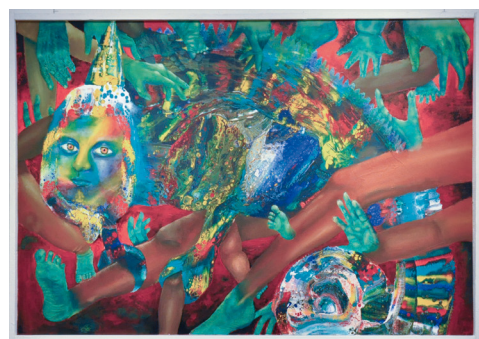


入選

地域創成学科2年 緑川 由真

「深海のお掃除屋さん」

黒陶土を使用してダイオウグソクムシを
制作しました。甲羅の光沢感が伝わるよ
うに工夫しました。足や触覚なども細部
までこだわり、粘土で上手く表現できた
と思います。



青少年美術奨励賞 福島県教育委員会教育長賞

地域創成学科1年 亀井 果歩

「たとえあなたが 木登りができたとしても あなたは私には敵わない」

描いたのは「いいじゃない」そう言っているカ
メレオンです。なぜ人の顔なの?「いいじゃ
ない」。なぜ木の枝葉が人の手足なの?「いい
じゃない」。何者なの?「そんなの何だってい
いじゃない」

紙上美術展101

第77回福島県総合美術展覧会に出品した短期大学部地域創成学科の学生
は1名が入賞、4名が入選しました。洋画の部入賞と彫刻の部入選の作品を紹
介します。入選はほかに、洋画の部で橋本唯花さん、彫刻の部で大村咲都理さん
と山形入望さん(いずれも2年)でした。

木もれ陽

今年の夏、関東大震災から百年
を迎え、災害を話題としたコース
を聞きながら、2011年に発生
した東日本大震災をきっかけとし
た沢山の出会いを思い出した。当時、
私は地域住民の相談に応じ支え合
う地域づくりを行っていた。地震発
生時は高齢者を対象とした研修会
の最中で、壁が落ちガラスが割れる
中、高齢者の方々はすぐに座布団
を頭にかぶり身を守る姿に、経験を
生きる力に変えてきた強さを感じ
た。その後、相対地域から避難され
ている方の仮設住宅を訪ね交流を

重ねた。助け合い、前に進もうとい
う笑顔と日常生活を取り戻してい
く姿からは、地域の再生や復興への
エネルギーと希望が感じられた。そ
して、人と人が支え合う姿から、大変
な困難があっても生きていくことが
できるものなのだと身をもつて知る
ことができた。災害や生きにくさ
等、多くの課題が示されている現代
において、人を思いやり助け合い
ながら合うことで、幸福度の高い社
会となることを願い、私も心掛けて
いきたいと改めて思う。(なお)